第１０分科会　自治的諸活動と生徒指導（中学校）

自治的能力を育てる集団活動の在り方
ー学級における各種の委員会活動の活性化を通してー

１．設定理由

今の子どもたちには、様々な問題を集団で話し合い、協力して解決する力が不足している。この問題の改善に向け、現行の特別活動学習指導要領では、「社会に参画する態度や自治的能力」の育成を重視している。子どもたちが将来、社会的資質を備え、自立した大人として生きていくためには、自治的能力の育成は不可欠である。一方で、子どもたちの実態を見ると「自分には関係ない」「誰かがやってくれる」と考えがちな子どもが増えている。担当学級の生徒を対象に意識調査を実施したところ、学級をよりよくしようとする姿勢や仲間に協力する姿勢が不足していることがわかった。自治的能力を育てるための具体的な手立てを明らかにすることは、学校教育において極めて重要な課題であり、学級経営の責務は大きい。そこで、本研究では学級における委員会活動に着目し、活動の評価方法やよりよい活動にするための話合い活動の在り方を工夫して、委員会活動を活性化させることで、個や集団の成長を図り、自治的能力の育成を目指した。

２．研究仮設

学級生活の基盤である委員会活動において、活動に対する評価や話合い活動の在り方を工夫し、ＰＤＣＡサイクルを活用して委員会活動の活性化を図ることで、生徒個々の意欲（責任感や自己有用感）を高め、よりよい集団を築こうとする自治的な意欲や態度（所属意識や問題意識、実践力）を育成することができるであろう。

３．研究内容

（１）学級における委員会活動の活性化を図る。

①各委員会活動における評価の在り方を工夫し、実践する。

・評価基準の作成（自己評価）・事前評価カードの導入（他者評価）

②自治的能力を育てる話合い活動の在り方を工夫し、実践する。

・話合いの形態を小グループ（各専門委員会）と学級会の２部構成で実施する。

・話合いの視点の確認と活用するワークシートの改善を図る。

・話合いの活性化に向け、学級リーダー（学級委員と各委員会の学級代表）を育成する。

（２）よりよい学級づくりを意識させ、生徒の問題意識の向上を図る。

４．結論

○委員会ごとに評価基準を設けたことで、仕事内容をより正確に理解し、活動の課題にも気づきやすくなった。また、相互評価を取り入れたことで、客観的に自他の活動を見つめることができ、生徒たちの自己有用感や活動意欲に向上がみられ、よりよい集団活動が窺えた。

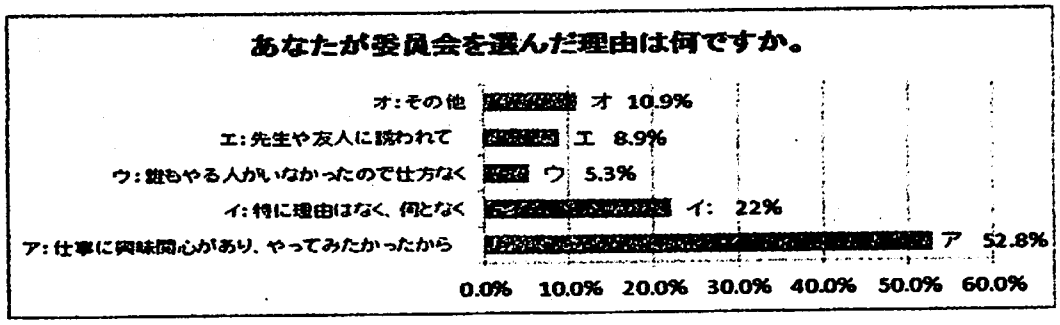
○ＰＤＣＡサイクルで実践したことにより、生徒の問題意識に高まりがみられ、徐々に創意工夫ある活動を取り入れる姿が見られた。本実践を通して、生徒たちに、よりよい集団を築こうとする意識や思考力、行動が着実に身に付いてきたことがわかった。

千葉市教職員組合
千葉市立葛城中学校
佐藤優子
千葉市立高洲小学校
森脇優香

自治的能力を育てる集団活動の在り方
ー学級における各種の委員会活動の活性化を通してー

1　主題設定の理由

本校では、全ての生徒が７つの委員会のいずれかに参加しており、学級生活を支える様々な活動を担っている。しかし、生徒の委員会活動の様子を見ていると、与えられた仕事をただこなしているだけで、活動に対する創意工夫や発展が見られない。また、仕事が明確に分担されておらず、限られた生徒のみが活動していることも多い。所属する委員会を選ぶ際の動機について調査したところ、自分の興味や関心のもとに選んだ生徒は半数程度であり、それ以外の生徒は、「友人に誘われたから」「やる人がいなかったため仕方なく引き受けた」といった、特に理由がない生徒であった。【図１】この結果からも、委員会活動に対する興味関心や意欲が低いことが窺える。さらに、学級内で毎月行う振り返り活動でも、自己評価がいい加減であったり、話合いに深まりがなく、的確な成果や課題を理解することができていなかったりしている。



【図１　委員会活動に関す意識調査５月】

一方で、委員会活動に対する意識調査を行ったところ、「自分の仕事に責任を持ってとりくんでいる」と答えた生徒は９２．９％（しっかりと取り組めた４５．４％・まあまあ取り組めた４７・５％)、「自分の役割を理解できている」と答えた生徒は９４．３％（よく理解できた４６％・だいたい理解できた４８．３％）と多くの生徒が自分の役割を理解し、責任をもってとりくんでいると感じていた。この結果から、生徒の委員会活動に対する意識と教師が実際に見る行動に大きな差があることがわかった。さらに、委員会活動に積極的にとりくめない原因について生徒に聞き取り調査をしたところ、以下の２点が分かった。

・自分の活動が学級の仲間の役に立っていると感じられない。
・役割分担がはっきりせず、どの程度活動にとりくんだらよいかが曖昧なため、何をどうしたらよいかわからない。

そこで、本研究では、学級における委員会活動の活性化を通して、生徒個々の意欲（責任感や自己有用感）を高め、よりよい集団（自治的な集団）を築こうとする意欲や態度（所属意識や問題意識、実践力）を育成することで、生徒の自治的能力を育てることをめざした。まずは、本学級の実態から、委員会活動における正しい姿を明確にし、共通理解を図るため、各種委員会の活動内容の基準を作成し、委員会活動にとりくむ土台を整備する必要がある。その上で、より有益な評価活動とそれにもとづいた建設的な話合い活動を、ＰＤＣＡサイクルを活用して取り組むことで、さらに創意工夫のある活動に発展させながら自己有用感や

責任感、帰属意識などを高め、自分の所属する集団を自分たちの力でよりよくしようとする意欲や態度、実践力を身につけさせたいと考えた。（以下は、前任校である千葉市立若松中学校での実践である。）

２．研究の目的と方法

（１）目的

学級生活の基盤である委員会活動において、活動に対する評価や話合い活動の在り方を工夫し、ＰＤＣＡサイクルを活用して委員会活動の活性化を図ることで、生徒個々の意欲（責任感や自己有用感）を高め、よりよい集団を築こうとする意欲や態度（所属意識や問題意識、実践力）を育成することをめざす。

（２）方法

①学級における委員会活動の活性化を図る。

ア委員会活動における評価の在り方を工夫し、実践する。

- 自己の活動を正確に理解し評価できるようにするため、各委員会の活動項目ごとに評価基準を作成する。作成した評価基準は、他の委員会の人でもわかるように、できる限り具体的に示す。（自己評価）
- 生徒の問題意識を高め、また評価に客観性を持たせるため、学級の仲間から活動を評価してもらう。（他者評価）

イ自治的な意識（活動意欲、問題意識、責任感、帰属感、自己有用感など）を高め、より有益な話合いができるよう、話合い活動の工夫を図り、実践する。

- 話合いの形態を小グループ（各専門委員会）と学級会の２部構成で実施する。
- 話合いの視点の確認と活用するワークシートの改善を図る。
- 話合いの活性化に向けて、学級リーダー（学級委員と各委員会の学級代表）の育成を図る。

②ＰＤＣＡサイクルを活用して、計画的、継続的に話合い活動を実践し、生徒の問題意識の向上を図る。

話合い活動	実践（協働）			話合い活動
課題の発見・共有	→問題解決	→	個の成長・集団の成長	→ より高い問題意識

３．研究の内容

（１）自治的能力の定義

自治的能力について、現代学校教育用語辞典では、「集団生活において自分の責任と義務を果たし、自分の意志を集団に反映させる能力」と定義している。具体的には、以下の５つの意欲や態度を自治的能力と考えた。そして、学級における委員会活動を通して自治的能力を育てるため、活動評価の工夫や話合い活動の工夫（問題意識を持つ・自己表現する・意思決定する）、ＰＤＣＡサイクルを活用した問題意識の向上に取り組んだ。

≪自治的能力と学級における委員会活動を活用した具体的な手立て≫

自治的能力	具体的な手立て
①自分たちの生活をよりよくしようとする意欲	評価基準や活動の見直し
②自分が集団のためにできることを考え、判断し、実行する力	評価基準の設定と実践 創意工夫ある活動の設定
③問題意識を持ち、自分の考えを仲間に表現する力	話合い活動の工夫
④人任せにせず、自ら進んで行動する態度	リーダーの育成
⑤自分の責任と義務を果たす態度	ＰＤＣＡサイクルよる実践

（２）学級における委員会活動の活性化

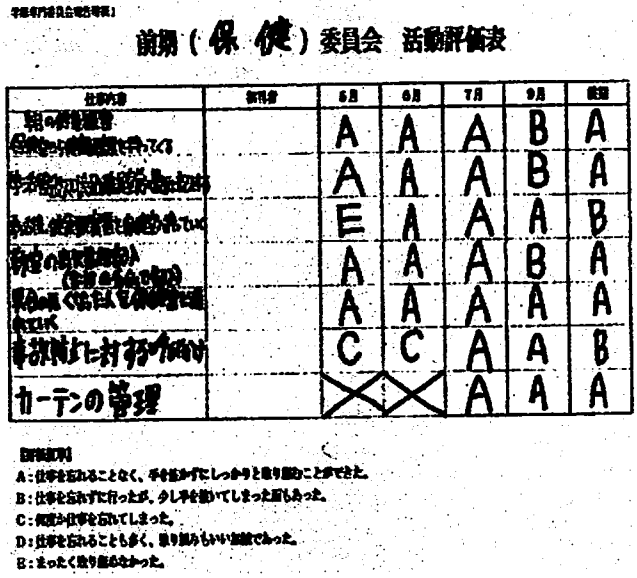
①委員会活動における評価の工夫

ア・評価基準の作成（自己評価の工夫）

「自分たちの生活をよりよくしようとする意欲」を育てるために、まず、委員会活動に取り組む土台を整備することから取り組んだ。本学級の実態からも、生徒の自己評価と実際に教師の見た姿との間に大きな差があるため、委員会活動の正しい姿を学級全体で理解し、共有する必要があると考えた。

これまでの委員会の活動評価は、Ａ（仕事を忘れることなく、手を抜かずにしっかりととりくむことができた）～Ｅ（全くとりくめなかった）の５段階であった。【資料１】

しかし、この評価基準は、主観または感覚的な判断で自己の活動を評価しがちであった。その結果、活動ができていなくても高い評価をつける生徒も多く見られた。このような判断のもとでは、正確に活動を評価することができず、委員会活動の充実を図ることは難しい。また、自己評価が曖昧なため、振り返り活動にも深まりがみられなかった。



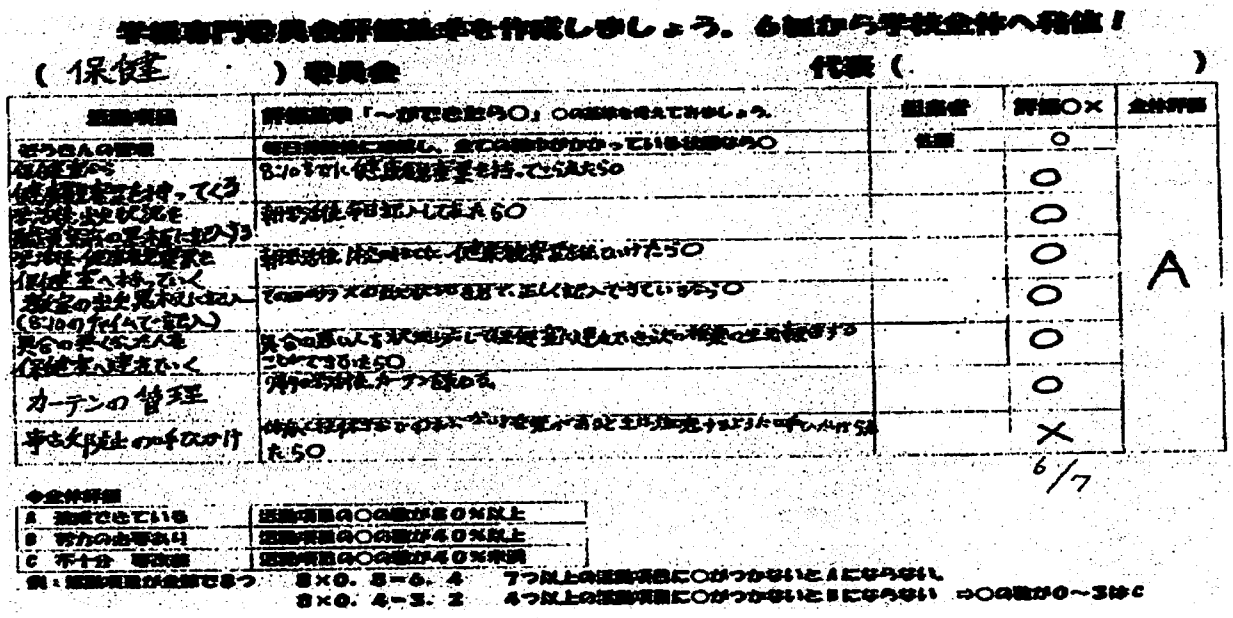
【資料１：学級専門委員会ワークシート】

そこで、委員会活動における正しい姿を明らかにし、学級全体で共通理解を図るため、誰が見ても明確な委員会活動の評価基準の作成を行った。まずは、担当学級において、委員会ごとに各活動に対して「何ができたら評価が○になるか」を考えた。その際、例えば、給食委員会では、「毎日４時間目終了後１０分以内に着替えて全員着席させることができたら○」「毎週金曜日に布巾を石鹸で洗うことができたら○」というように、できる限り具体的な行動や数値を取り入れてみるようアドバイスした。また、集団生活の向上のために必要な活動についても話し合い、自己評価に取り入れた。【資料２】【資料３】さらに、出来上がった評価基準を、学年や全校の専門委員会に提案、検討し、より客観性を持たせた。評価の基準をはっきりさせることで、自分の活動に不足していたものを明らかにすることができ、次回の活動目標を明確に持つことができるようにした。また、誰から見てもわかる基準のため、同じ活動を同じ基準で評

価することができ、評価や活動に対する意見の交換がしやすいと考えた。

着席の呼びかけ	毎日４時間目終了後１０分以内にジャージに着替えて全員着席させることができたら○
配膳台を出して拭く	毎日給食当番が来る前に準備できたら○
配膳台を拭いて片づける	毎日掃除が始まる前に片づけることができたら○
ゴミ箱準備・食器片付け準備	毎日忘れず決められた通りに準備できたら○
白衣の点検と管理	金曜日の帰りの会で白衣を配り、月曜日の朝に白衣が全部あることを確認できたら○
	３時間目が終わった後に白衣を当番に配ることができたら○
	４時間目が移動教室の時に白衣を移動場所に持っていくことができたら○
給食当番の確認	月曜日の朝の会で今週の当番を知らせることができたら○
担任の給食を配膳する	毎日忘れずにできたら○
配膳	毎日給食当番が来る前に着替えて配膳の準備をすることができたら○
給食の献立紹介	毎日朝の会で知らせることができたら○
布きんの管理	毎週金曜日に布きんを石鹸で洗うことができたら○

【資料２：評価基準の例：給食委員会】

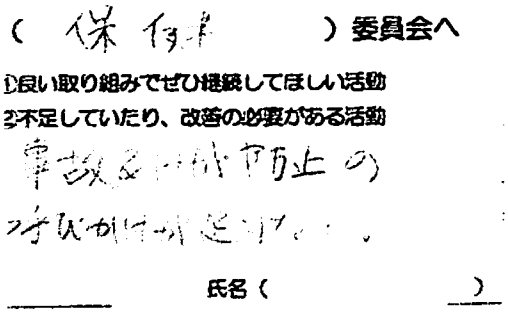


【資料３：実際の各委員会の評価基準と記録】

イ・事前評価カードの導入（他者理解の工夫）

毎月、学級で委員会の振り返り活動を実施している。今年度は、生活意欲の向上や学級への帰属意識の向上に向けて各委員会の成果と課題を学級全体で共有するため、振り返り活動の際に、学級全体に各委員会の成果と課題を報告し、それに対して意見交換をする場面（学級会）を設けた。しかし、学級会だけでは評価や意見交換を十分に行うには時間的にも限界があった。その結果、話合いを途中で中断せざるを得ず、最後まで意見をまとめきれないまま中途半端に終わってしまうことも多く、活動の改善につなげることができなかった。結果、徐々に活動が形骸化してしまった。そこで、振り返り活動を行う１週間前に、学級全体で各委員会の活動に

対して評価をする「事前評価カード」を取り入れた。【資料４】例えば「保健委員会へ　事故やけがの呼びかけが足りない」、「給食委員へ　当番の移動が最近遅いので対策が必要ではないか」というようなものである。記入の際には、活動のマイナス面ばかりに目を向けず、プラス面にも目を向けるようながした。


（　保健　）委員会へ
①良い取り組みでぜひ継続してほしい活動
②不足していたり、改善の必要がある活動
事故&けが防止の
呼びかけが足りない。
氏名（　　）

【資料４：事前評価カード】

②話合い活動の工夫

ア・活動形態の工夫

前年度まで、学級における専門委員会の振り返り活動は、各委員会の話合いのみであった。今年度は、「問題意識を持ち、自分の考えを仲間に表現する力」を育成するため、各委員会の活動を学級全体で相互評価し、成果や課題を共有し合い、個々の問題を学級全体の問題としてとらえる活動を取り入れた。そこで、振り返り活動の形態を、各委員会での話合い（小グループでの話合い）と学級会（学級全体での話合い）の２部構成にした。各委員会での話合いは、全ての生徒が自己評価と所属する委員会の成果と課題について自分の意見を述べる場面を設定した。また、全体会では各委員会の報告を通して、学級全体で評価や意見（改善意見・要望・他提案など）を伝え合う場面を設定した。その際、「学級の一員として学級生活をよりよくしたい」といった意識を持って参加するようアドバイスした。これまで各委員会のみで処理していた問題を、学級の仲間から意見や改善、要望をもらい、みんなでよりよい活動にするための話合いを行うことで、委員会活動の活性を図った。

【資料５】【資料６】

【資料５：各委員会の話合いの様子】

【資料６：全体会の様子】

イ・話合いの視点の確認と活用するワークシートの改善

これまで、話合い活動における視点の確認や進め方などが学校全体で統一して行われておらず、生徒任せになっている部分が多かった。そこで、本学級において、話合い活動を実施する際の活動内容（流れ・進め方）を統一し、話合いの視点を確認した。小学校の国語の授業や特別活動における学級会などを通して、話し方や聞き方などは一通り身についている。そこで、中学生として「問題意識をもって話合いに臨む」「課題解決に向けた建設的な話合いを意識する」「よりよい学級をつくるための話合いを意識する」といった話合いを深める視点を重視し、学

級全体で確認した。【資料７】

≪話合いを深める≫
①「よりよい学級を築くため」の意識を常にもって話合いに臨む。
②課題に対して共通了解を図るため、建設的な議論を行う。
③課題の解決に向け、実践可能な解決策、改善策を考える。

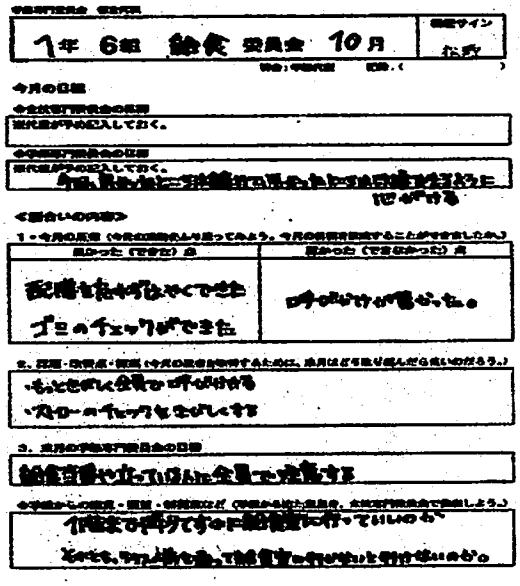
【資料７：話合い活動の視点（抜粋）】

３年間かけて建設的な意見を述べる力を育て、自治的能力を身に付けさせたいと考えている。特に思考力、判断力、自己表現力においては【資料８】のように発達段階に応じて目標を設定し育成することを目指した。

発達段階	話合い活動で育てたい生徒の姿
１年生	活動を正しく評価し、成果や課題を考え委員会の仲間に伝えることができる。
２年生	課題に対して建設的な意見を考え、学級全体に伝えることができる。
３年生	活動の創意工夫を考え、建設的意見（批判も含む）を学級内で積極的に述べ合うことができる。

【資料８　思考力・判断力・自己表現力における到達度目標】

また、話合い活動の充実を図るために、学級委員や各専門委員会の学級代表と担任でこれまで活用していたワークシートを見直し、各月の活動の成果や課題、次回の目標などを記入するワークシートを作成した。【資料９】ワークシートは、各委員会の活動が可視化できるよう掲示し、学級全体で共有した。また、委員会ごとにワークシートに沿って話合いを進めていったため、話合いの流れはどの委員会も統一して行うことができた。



【資料９：専門委員会ワークシート】

ウ・リーダーの育成

「学級の課題解決に向けて、自ら進んで行動する態度」を育てるために、まずは、その先頭に立つ学級リーダーの育成に取り組んだ。学級には、全体をまとめる学級委員（２名）と全校の専門委員会に参加する各委員会の学級代表（全７名）がおり、それぞれ学級のリーダーとして活躍している。振り返り活動では、学級会の司会を学級委員、各委員会の話合いの司会を学級代表が務めた。しかし、いざ話合いを行おうとしても円滑に進めることができなかった。自治的な集団活動では、リーダーたちが主となり、率先して活動することが不可欠である。リーダーシップを育て、彼らを中心に自治的な活動の輪を広げることが必要であると痛感した。ま

ずは、話合いの進め方をシナリオ形式にして学級会用と各委員会の話合い用に分けて作成した。それを活用して、各月の振り返り活動の前に、司会を担当するリーダーと事前のミーティングを行い、話合いの流れや司会を行う上での心構えなどを確認しあった。事後の活動では、リーダーを集めたミーティングを開き、司会を実際に行った際の悩みを話し合い、改善策を考えたり、お互いへのアドバイスを行ったりした。その際、教師はアドバイザーに徹した。

（３）生徒の問題意識の向上に向けて

初めは、自分の所属する委員会以外には無関心であった生徒が、委員会活動の土台を整備し、話合い活動の道筋を作ったことで、各委員会活動の成果や課題に少しずつ目を向けるようになった。常に「よりよい学級を作る」ことを意識し、委員会活動や話合い活動にとりくむ姿が窺えた。例えば、あらかじめ事前評価を通して各委員会から出された課題を、学級委員を中心に整理し、「今、学級にとって必要性な議題」を選び、学級会を実施した。その際、生徒一人ひとりが学級の課題を自分の課題としてとらえ、みんなで問題を解決することを意識して話合い活動に取り組むよううながした。また、委員会活動をより創意工夫あるものにしていくため、どんな活動を行うと学級がよくなるかを考え、実践した。これらの話合い活動が、生徒の学級に対する帰属意識を高め、「自分たちの学級を自分たちの手でよくしよう」と考え、行動する自治的活動へと発展していった。

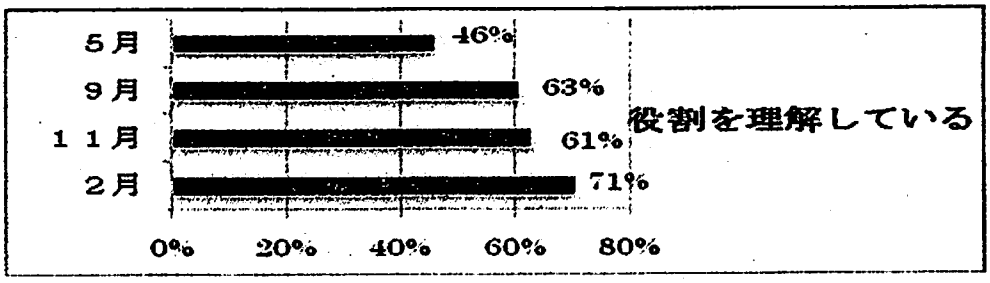
４．成果と今後の課題

（１）成果

① 委員会活動に対する意識の変化

ア・ 評価基準に基づいた活動の変化

各委員会の活動ごとに評価基準を設けたことで、自分の役割が具体的に示され、より正確に理解できるようになった生徒が【図２】の通り５月４６％から２月７１％と２５ポイント増加した。さらに評価基準を作成していくうちに自ら活動の過不足にも気付くことができ、新たな活動を積極的に取り入れる様子も見られた。【資料１０】例えば、図書委員会では「朝読書カードの月末統計ができていなかった」ことに気づき、「統計したらその結果を発表し、たくさん読んでいる人を学級内で表彰したら、みんなのやる気がアップするのではないか」といった創意工夫ある活動が取り入れられた。また、評価基準は学級全体にもあらかじめ提示されているため、事前評価カードを作成する際にも有効に活用することができた。



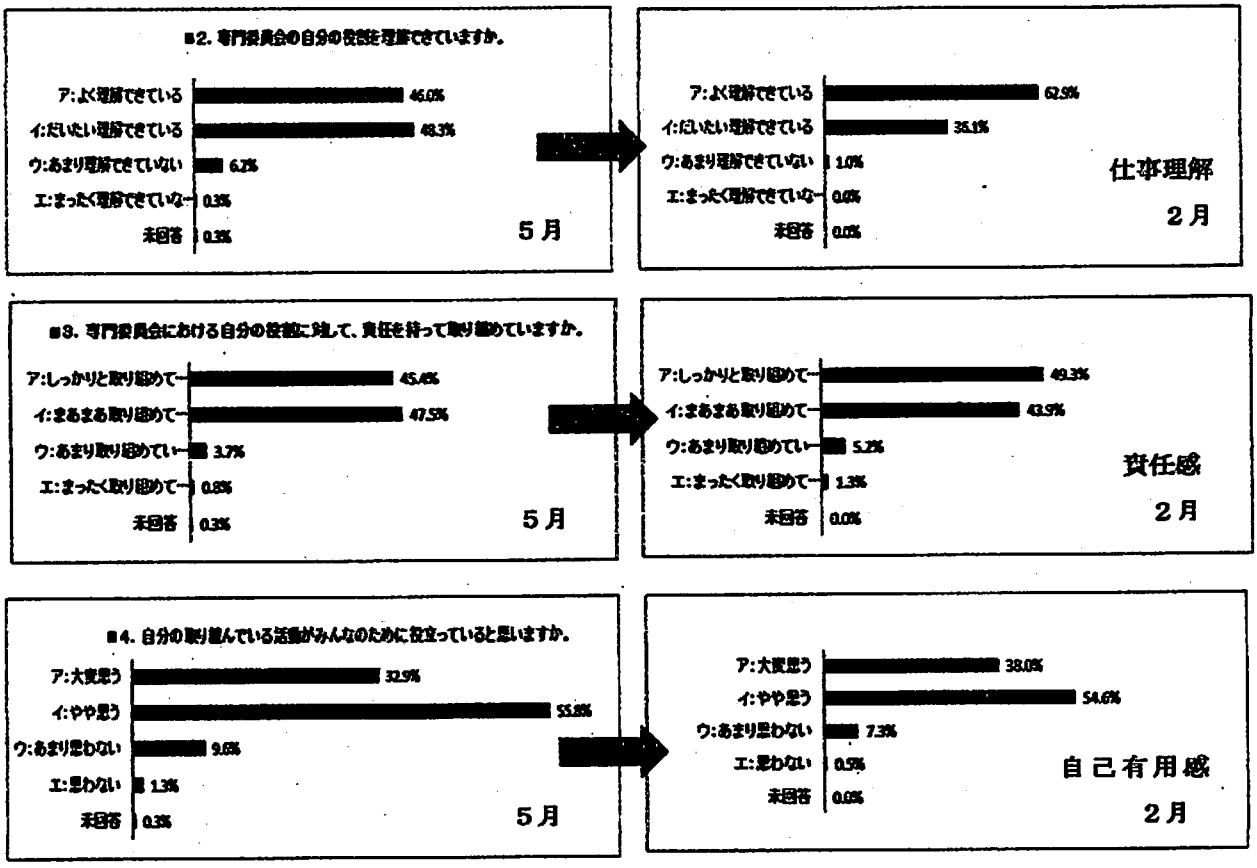
【図２　意識調査の変容】

委員会名	あいまいになっていたり出来ていなかった活動⇒改善・新活動のとりくみ
図書委員会	○朝読書カードの月末統計ができていなかった。 ⇒統計を出す活動の中で、たくさん本を読んでいる人を学級に発表する活動を新たに取り入れた。
保健委員会	○健康観察は誰がやる？保健委員会でやらせてほしい！ ⇒これまで担任が朝の会で呼名と一緒に行っていたが、担任の呼名後、保健委員会が全体に調査し、観察版に記入することになった。（担任も一緒に確認）

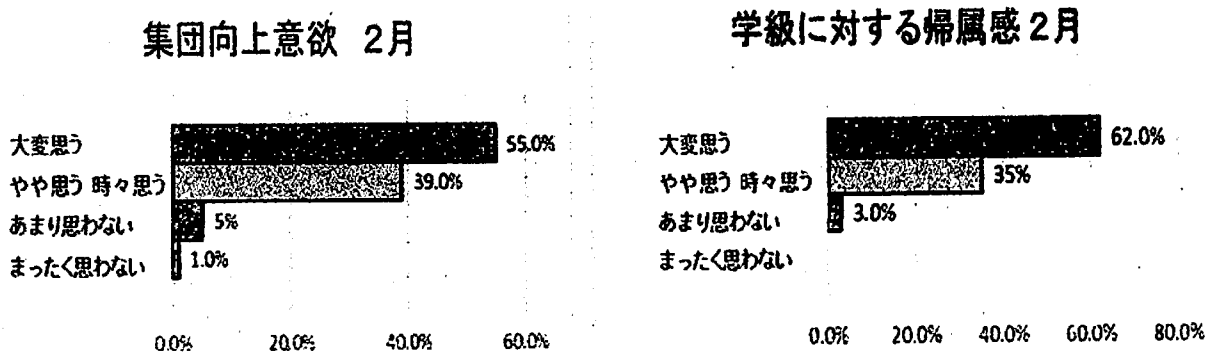
【資料１０：具体的な事例】

イ　・事前評価カードの導入による変化

事前評価カードを取り入れたことで、振り返り活動の前に、学級の仲間からの活動評価を確認することができ、より充実した話合いが展開された。自分たちはできていると感じていたのに対し、実は学級の仲間からは不足していると評価され、再度自己評価を見直すなど、より深く自分の活動を見つめ、次回の課題を確認することができた。さらに「美化委員会へ　帰りの会で傘の持ち帰りを呼びかけ、出入り口で傘を渡してくれるので傘の持ち帰り忘れが減って良かったと思います。」などのプラスの評価を増やすことで、生徒たちの自己有用感や活動意欲の向上につなげることができた。【図３】【図４】の意識調査の変容でも、「自分の仕事がみんなの役に立ったと思う」と答える生徒が後期に入り少しずつ増えていることが分かった。



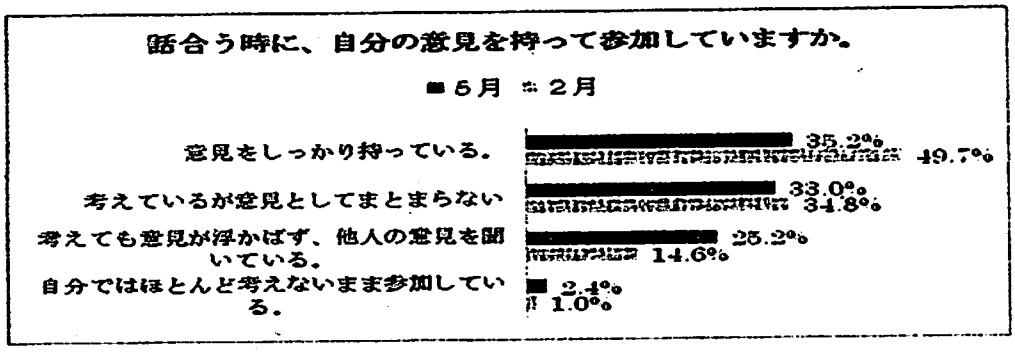
【図３　意識調査の変容①】



【図４　意識調査の変容②】

②話合いに取り組む姿勢や意識の変化

４月より継続的に話合い活動を実施した結果、「いつでも発言できる状態である」と答えた生徒が５月３３％から２月５３．５％と２０．５ポイントの増加が見られた。少しずつではあるが議題に対して意見を持ち、発言しようとする生徒が増えてきていることが【図５】の調査結果からも明らかである。しっかり意見を持って参加している生徒は、２月４９．７％と全体の過半数以下ではあるが、５月から着実に伸びてきている。



【図５ 話合いに関する意識調査の変容】

また、行動調査では、「委員会活動の課題や改善点を考え、仲間に伝えることがとてもできた」と答えた生徒は、５月２５．７％から２月４３．９％と１８．２ポイントの増加が見られた。「建設的な考えに立って積極的に意見を述べることができた」では、５月１６．１％から２月３０．１％と１４ポイントの増加が見られ、話合い活動に積極的にとりくむ姿が少しずつ増えていることがわかった。

自分の意見を持つことや発言が増えることで、相互評価や意見交換の場面が充実し、委員会活動の活性化にもつながった。自治的な活動では、よりよい集団を築くために、高い問題意識と積極的な話合い活動が必要となる。年間を通して話合い活動を計画的に実施し、話合いのスキルを向上させ、活発な議論ができる環境を作ってきたことが、生徒の自治的能力の育成に影響を与えることができたと考える。

③生徒の自治的能力の変化

生徒が１年間の委員会活動を振り返った際、【資料１１】のように「どのようにしたらクラスがよくなるか考えて行動することができた」という感想が見られた。この言葉からもわかるように生徒たちに生活向上意欲やそれに伴う思考力が着実に身に付いてきていることが窺える。２月の意識調査でも、集団向上意欲が「とても高まった」と答えた生徒は５５％であった。行動調査では、「自分の仕事にとても積極的にとりくんでいる」と答えた生徒は６４％、「委員会の仲間と話合いや仕事をする際、とても協力してとりくめた」と答えた生徒は７１％であった。委員会活動に対する評価活動や話合い活動を継続してとりくんできたことで、生徒の自治的能力が少しずつ向上していることがわかった。

自分のクラスを客観的に見るのにとてもよかったです。どのようにしたら、スが良くなるかを常に考えて行動することができました。また、自分1人はなくみんなで協力しながら、クラスを良くしなくてはいけないということがようわかりました。これからも、委員会の仲間、全員でがっていきたいと思いました。

【資料１１　生徒の感想】

（２）課題（今後の展望）

今年度の活動は、生徒たちのもつ自治的能力を目覚めさせ、開花し始めようとする段階に過ぎない。今後のとりくみ次第で、生徒たちの能力はプラスにもマイナスにも変化する。集団向上意欲や思考力や自己表現力など伸ばしていくべき点は多い。特に、建設的な意見交換や問題意識、自己表現力の向上に関しては、効果的な手立ての在り方を今後も継続して探っていく必要がある。生徒たちが見につけた力をさらに積み上げていけるよう、次年度以降も、生徒が「自分たちの手によってよりよい学級を築いていく」という意識をもち、専門委員会の評価や話合い活動に継続してとりくめるよう支援していきたい。その際、意識調査と行動調査を計画的に実施し、生徒たちの変容の把握に努め、実態に応じた改善を図っていく。また、活動は同じことを繰り返していく中で形骸化しやすい。委員会活動の評価基準や評価方法についても、定期的に見直し改善していく必要がある。生徒の自治的能力を伸ばすためのよりよい活動の在り方を、全校体制で問い続けていきたい。

参考文献

・現代学校教育大辞典(2002)　ぎょうせい
・文部科学省(2008)中学校学習指導要領解説　特別活動編

専門委員会の進め方（学級代表Ｖｅｒ．）

専門委員会の話合いの司会は学級代表です。

話合いの順序	司　会　シ　ナ　リ　オ
１．始めの言葉	※あらかじめ、話合いを行う場所を確認しておく。部員を集合させ着席させる。 これから（　　）月の〇〇専門委員会の反省を始めます。
２．記録者の確認	今日の記録を行ってくれる人はいますか。（　　）さんお願いします。 ※できれば、部員内で交代して行いましょう。
３．今月の反省 ①個々の活動のふり返り	今月の各活動の取り組みをふり返ります。１つずつ確認していくので担当者は評価を言ってください。記録する人は評価を報告用紙１に記入してください。
②学級専門委員会の良かった点・悪かった点	今月の〇〇委員会の全体の評価は（　　）です。事前評価カードでは良かった点は〇〇、悪かった点は△△という意見をもらいました。 カードや評価の内容をもとに、今月の良かった点について意見をお願いします。 次に出来なかった点やうまくいかなかった点について意見をお願いします。 ※意見が出なかった場合は、部員全員に良かった点・悪かった点のどちらかを発表してもらいましょう。
③課題・改善点提案	・今の反省から、〇〇委員会の課題や改善点は何だと思いますか。具体的に意見を述べてください。 ※意見が出なかったら部員の中から２名程度指名して発表してもらいましょう。
	その他、取り組みを通して気付いたことや委員会活動をより良くするための意見、新たに取り組んだ方がよい活動などがあれば発表してください。 ※部員全員に意見がないか確認しましょう。小さなことでもＯＫです。積極的に発表させましょう。
④来月の学級専門委員会の目標 ３分	今月の反省から来月の学級専門委員会の目標を考えたいと思います。どんな目標が良いと思いますか。積極的に発表してください。 ※意見が出なかった場合は、部員全員に発表してもらいましょう。
４・意見・質問	これで全ての話合いが終わりましたが、ここまでで、何か意見や質問がある人はいますか。 （意見や質問がなければ）この後、全体会で、今、話合った内容を報告します。 これで〇〇委員会の話合いを終わりにします。（必ず挨拶を行う。）

≪司会者の心得≫

①はきはきした言動で、てきぱきと話合いを進める。

②話合いが騒がしくならないように注意するなど、集中した雰囲気をつくる。

③いろいろな人に意見を出してもらうように心がける。

④話合いが議題からそれないようにする。

（例）「話合いがそれてきているようです。〇〇について意見を言ってください。」

⑤意見を整理する。

（例）「〇〇と□□の意見が多いようですが、他に意見はありませんか。」

専門委員会の進め方（全体会）改訂版

・司会：学級委員長　副司会：学級副委員長　記録（黒板・ノート）：学級書記
・座席は休み時間中に委員会ごとにしておきましょう。場所も予め決めておきましょう。

話合いの順序	司　会　シ　ナ　リ　オ
1．始めの言葉	『これから（　　）月の学級専門委員会を始めます。』
2．活動内容の確認 （前期のみ行う）	『今日の学級専門委員会の活動内容を確認します。 ①初めに各専門委員会の反省を行います。司会は、学級代表が行います。 記録は、部員の中から１名選出してください。 委員会ごとに集まり「報告用紙１評価基準表」を使って、各仕事に対する取り組みをふり返り、評価を記入してください。 ②次に「報告用紙２」の内容に従って今月の反省、来月の目標決めを行ってください。 その際に、みなさんに書いてもらった事前評価カードの内容や各活動の評価をもとに反省や目標決めを行ってください。 ③最後に各委員会の報告を行います。発表は学級代表が行います。 その後、発表内容に対して、みなさんから各委員会に対する質問や積極的な意見・要望提案を発表してもらいたいと思います。 今日の学級専門委員会の中で１人１回は発表できるように取り組みましょう。』
3．各委員会の反省 （話合い活動１）	『委員会ごとに集まり、学級代表を中心に反省を始めてください。時間は１０分間です。それでは開始してください。』 ※その際受け取った事前評価カードに対する対応にういても返答する。 ≪話合いの内容≫ ①報告用紙１（評価基準表）を使って各活動をふり返り、評価を行う。 ②今月の反省（学級専門委員会の良かった点・悪かった点） ③課題・改善点・提案 ④来月の学級専門委員会の目標
4．全体会 （話合い活動２） ○各委員会報告」	※全体を前に注目させる。 『これから、各委員会で話合ったことを学級代表に報告してもらいます。 報告内容は、①今月の反省　②課題・改善点・提案　③来月の目標です。 それでは、○○委員会お願いします。 学級代表は、その場で起立して全体の方を向いて発表してください。 みなさんは、発表する学級代表に注目してください。』 ※全体を発表者の方へ向かせる。 １つの委員会の発表が終わったら・・・ 『ありがとうございました。次は△△委員会お願いします。』 ※生活・広放・美化・保健・図書・給食・学習・学年生徒会の順で発表させる。 学年生徒会は、副委員長が報告する。

○質問・意見 要望・提案	委員会と学年生徒会の報告が全て終わったら・・・ 『今の報告に対して、質問や意見、要望、提案を受け付けます。質問や意見、要望、提案のある人は手をあげてください。』 ○質問 ⇒ 委員会に返答してもらう 『～の質問について、○○委員会は返答をお願いします。』 ※すぐに返答できない内容については、再度、委員会で話合わせ、後ほど帰りの会などで報告させる。 ○意見 → 簡単なものは委員会に返答してもらう ○要望 → みんなで話合う必要のある内容 → 議題として話合う （議題が多い場合はしぼる）
○議題について 話合う	①議題を選定し全体に伝える。 『今出た意見（要望）の中から今日は○○について話合いたいと思います。』 ②話合う内容に対する賛成・反対意見を学級全体に聞く。多くの意見を出し合う。 『○○さんの意見（要望）について、賛成意見や反対意見はありませんか。』 ③学級としての意見をまとめる。学級が進む方向性を決める。 ⇒例１：多数決をとる 例２：意見をまとめる。 『～という意見が多いようですが、○○委員会の活動は～するでよいですか。』 ※学校全体に関することや良い内容については全校専門委員会で報告させる。 ○特に意見等がない場合 → 予め事前評価カードを活用して議題を考えておく 『今回の事前評価カードで ・○○についての意見が非常に多かったので ・○○についての意見がありましたが、学級にとってとても大切だと思うので 今日は○○について話し合いたいと思います。』 ↓ 『活動に対する感想でもかまいません。積極的に発言してください。』 ↓ それでも出なければ、学級の中で２名程度指名して委員会に対して感想などを発表させる。 『質問や意見などが出ないので、今月の各委員会の取り組みに対して感想を発表してもらいます。○○さんお願いします。』（感想を述べる人を指名する。）
	全ての話合いが終わったら・・・ 『これで学級専門委員会での話合いが終わりました。全体を通して何か意見や質問がある人はいますか。今日の学級専門委員会の進め方についての意見や要望、提案でもかまいません。』（特になければ次へ・・・）

5．学級委員の話	『学級委員の話　〇〇さんお願いします。』 ※今日の学級専門委員会の感想を述べる。「話合いがスムーズに進んだ」などだけでなく、報告内容や質問、意見などに対する感想も述べられると良い。
6．先生の話	『先生の話、〇〇先お願いします。』
7．　終わりの言葉	『放課後、全校専門委員会が行われます。学級代表は、今話合った内容や、学級で出た質問、意見、要望、提案を全校専門委員会で報告してください。 今日の反省を生かし、来月も委員会活動に積極的に取り組みましょう。 これで（　）月の学級専門委員会を終わります。』

≪司会者の心得≫

①はきはきした言動で、てきぱきと話合いを進める。

②話合いが騒がしくならないように注意するなど、集中した雰囲気をつくる。

③いろいろな人に意見を出してもらうように心がける。

④話合いが議題からそれないようにする。

（例）「話合いがそれてきているようです。〇〇について意見を言ってください。」

⑤意見を整理する。

（例）「〇〇と□□の意見が多いようですが，他に意見はありませんか。」

学級専門委員会アンケート

（　　）年（　　）組・氏名（　　）

◆意識調査　　通年（５月・１０月・２月）

次の質問について、ア～エの中から当てはまるものを１つ選び○をつけてください。

①専門委員会における自分の役割を理解しているか。（仕事理解）

ア：よく理解している	イ：だいたいは理解している
ウ：あまり理解していない	エ：まったく理解していない　わからない

②専門委員会における自分の役割に対して、責任を持って取り組んでいるか。（責任感）

ア：しっかりと取り組んでいる	イ：まあまあ取り組んでいる
ウ：あまり取り組んでいない	エ：まったく取り組んでいない

③自分の取り組んでいる活動が学級のために役立っていると思いますか。（自己有用感）

ア：大変思い	イ：まあまあ思う
ウ：あまり思わない	エ：まったく思わない

④学級の一員であるという意識（自覚）を持っているか。（帰属感）

ア：とても持っている	イ：まあまあ持っている
ウ：あまり持っていない	エ：まったく持っていない

⑤学級専門委員会を通して、学級を良くしよう（良くしたい）という気持ちを持っているか。

（集団向上意欲）

ア：とても持っている	イ：まあまあ持っている
ウ：あまり持っていない	エ：まったく持っていない

◆行動調査　（１０月・２月）

次の質問について、ア～エの中から当てはまるものを１つ選び○をつけてください。

①話合いの議題に対して自分の考えを持ち、仲間に伝えることができたか。（自己表現）

ア：とてもできた	イ：時々できた
ウ：あまりできなかった	エ：まったくできなかった

②委員会活動の課題や改善点を考え、仲間に伝えることができたか。（問題意識）

ア：とてもできた	イ：時々できた
ウ：あまりできなかった	エ：まったくできなかった

③「もっと～すると、よくなるのでは・・・」というような建設的な考えに立って意見を述べることができたか。（建設的意見）

ア：積極的に伝えることができた。	イ：時々伝えることができた
ウ：あまり伝えることができなかった。	エ：まったく伝えることができなかった。

④自分の仕事に積極的（または確実に）に取り組んでいる。（自主性）

ア：とてもできた	イ：時々できた
ウ：あまりできなかった	エ：まったくできなかった

⑤委員会の仲間と話合いや仕事をする際、協力して取り組むことができたか。（協働）

ア：とてもできた	イ：時々できた
ウ：あまりできなかった	エ：まったくできなかった

⑥話合い活動の参加状況

ア：自分の意見を積極的に発言することが多い。
イ：時々発言することがある。
ウ：指名されると発言できるが、自分からはほとんど発言しない。
エ：指名されてもほとんど発言しない。

⑥のウを選んだ人	⑥のエを選んだ人
その理由を書いてください。	その理由を書いてください。